

カンガルーシップ活動 理解プロジェクト 実施報告書

報告日	平成 30 年 3 月 8 日
学校名	筑波大学附属大塚特別支援学校
PTA会長名	江口 浩代

実施概要	実施活動名	出張カフェ part 2 ! ～出張カフェで東京キャンパス文京校舎の皆さん、老人ホームの方々、地域の皆さんにサービスしよう～
	実施日時	平成 30 年 9 月 11 日、10 月 30 日、11 月 7 日・14 日・28 日、12 月 11 日 平成 31 年 1 月 22 日・29 日・30 日、2 月 5 日・6 日、3 月 8 日
	実施場所	洛和ヴィラ文京春日（近隣の特別養護老人ホーム）、東京キャンパス文京校舎内
	実施目的	学校近隣の特別養護老人ホームの皆様、東京キャンパス文京校舎職員の皆様に、無償でカフェメニューを提供し、皆様にサービスさせて頂くことにより、本校の児童生徒たちの作業学習の様子や、取り組みを通して知的障害を持つ生徒たちへの理解や啓発を図る。
	実施内容	喫茶サービス・挨拶の推進、地域および東京キャンパス文京校舎内の方々との交流
	実施方法	昨年度の実績を活かし、コーヒーやお茶のサービス、作業学習で製造しているシフォンケーキなどの提供を行う。本年度は少し範囲を広げ、茗荷谷の東京キャンパスまで出張する。機材・材料を運ぶためのカフェ専用リヤカー、宣伝するためののぼりを利用する。
	参加人数	・高等部生徒 24 名、教員 8 名（中学部はスケジュールが合わず参加が叶わなかった） ・洛和ヴィラ文京春日利用者の方々、東京キャンパス文京校舎の職員の方々、本校生徒の保護者

報告事項	内容	<p>昨年度の助成金から購入させて頂いた「コーヒーマシーン」を活用し、本格的で安定した味のコーヒーや抹茶オ・レ、紅茶などを提供した。また、製作するお菓子は難易度を上げて「シフォンケーキ」を提供した。</p> <p>○洛和ヴィラ文京春日（老人ホーム） 午前中、本校家庭科室においてシフォンケーキを製造後、カフェ専用のリヤカーに、資財・機材を積み込み、老人ホームまで運び、のぼりを立てて老人ホーム内地域交流室をカフェ風に設営した。老人ホーム利用者の皆さまにコーヒー等の飲み物とシフォンケーキのサービスを実施した。教員は指導、保護者は見守りを行った。</p> <p>○東京キャンパス文京校舎 午前中、本校家庭科室においてシフォンケーキを製造。午後、公共機関を使って、生徒たちで協力しながら資材・機材を運び、茗荷谷キャンパスの職員の皆さまにコーヒー等の飲み物とシフォンケーキのサービスを実施した。カフェ事業の他、落ち葉清掃・机ふき・図書館の本の整理なども行わせて頂いた。教員は指導、保護者はアイデアの提供・見守りを行った。</p>
	結果	<p>2 年目のこのプロジェクトは、生徒たちに自信をもってもらうために活動回数をかなり増やし行った。結果、老人ホームでは皆様が心待ちして下さるイベントになった。会話のできる生徒は飲み物のオーダーを取る際に、利用者の方と日常的な会話を笑顔で楽しんでいた。職員の方も生徒たちをよく理解して下さっており、利用者の方への提供の仕方などをご指導下さる場面もあった。そのような様子からも、交流の成果が手に取るように分かった。</p> <p>生徒が出来る事も広がっており、自信をもって活動できるようになっている。皆さんに提供しているシフォンケーキは作業学習で腕を磨き、きめが細かく口中で溶けるような食感のものを提供できるようになっている。</p> <p>どこの学校のどんな生徒がどのような活動をしているのかをアピールするための「のぼり」は、本年度は 1 回の使用だったが、振りむく人が多く、人目を引く効果は抜群だった。</p> <p>また、本年度は茗荷谷の東京キャンパスまで活動範囲を広げることが出来た。職員の方々からも大変喜ばれ、生徒たちは緊張しながらも更に自信を持って活動することが出来た。</p> <p>さらに、このプロジェクトを発展させるため新たな提供場所を模索する中、教員から本校にお客様をお招きしてカフェを開催したいという提案があった。そこで大人数のご来客がある 3 月 8 日に学校内で行われる卒業生のおわかれ会において、ゲストとしてお招きする東京大学ブラスバンド部のみなさんに「えがおカフェイベント」を企画しようという運びになり開催した。これを機にさらに活動の幅を広げ、来年度に備えたいと思う。</p> <p>一つ一つゆっくり進んでいく活動だが、確実に活動はパワーアップしており、周りへの理解・啓発も進んでいると思う。</p>

	所感	<p>老人ホームでは、利用者の皆様の憩いのイベントとして定着しつつあるこの活動。職員の方からは、「車いす利用の方々が多く、カフェに向いておいしいコーヒーを飲む機会がないため、心待ちにしている利用者さんが多い」と窺う。「えがおカフェ」開催日には、時間になるとあっという間に会場が満席になり、利用者の方々が楽しみにしていることがよく分かった。「こんなにおいしいコーヒーが飲めて嬉しい」と、お代わりをする方もいるほどだ。会場は楽しい会話と笑顔でいっぱいになり、生徒たちは自分たちのしていることに誇りとやりがいを感じているようだった。卒業していく高校3年生は「活動が楽しかった」と達成感いっぱいの顔で話してくれた。</p> <p>東京キャンパス文京校舎の活動は、発展途中ではあるが、職員の皆さまに喜んで頂いた実績を糧にして、今後も地道に活動を進め、キャンパスにさらに広く周知、発展させたい。</p> <p>さらには本校にお客様をお招きしてカフェを開催したいという教員の構想やもっと地域に広めたいという保護者の願いもあるので、提供場所も広げていきたいと思う。</p> <p>また来年度は、本校保護者に製菓学校の先生が所属しているので、作り方を指導頂き、そのレシピから本格的なスイーツを提供したいという構想がある。その構想を話し合う中、営業許可を得られる環境を整える事が出来たなら、生徒たちの事を更に広く知ってもらうために「おおつかオリジナル」のスイーツを販売したい、という発展的な夢も先生方とPTAで語り合うあうことができた。</p> <p>今後も、知的障害を持つ生徒たちへの理解や啓発を図るために、PTAが先生方と協力し合い、生徒たちを惜しみなくバックアップしていきたいと思う。</p>
添付書類	収支決算書、領収書添付シート、参加感想（生徒）、参加感想（保護者）、写真	

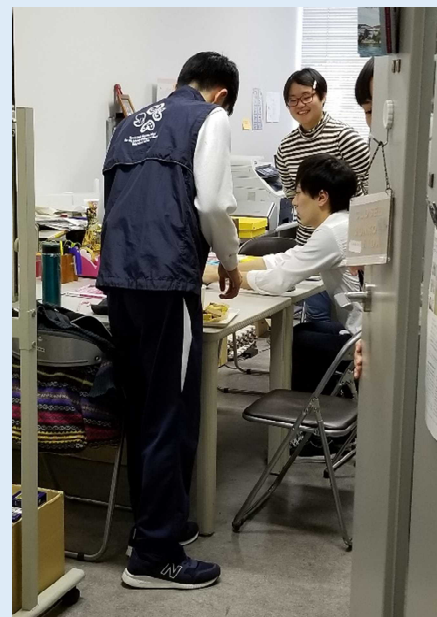
活動の様子



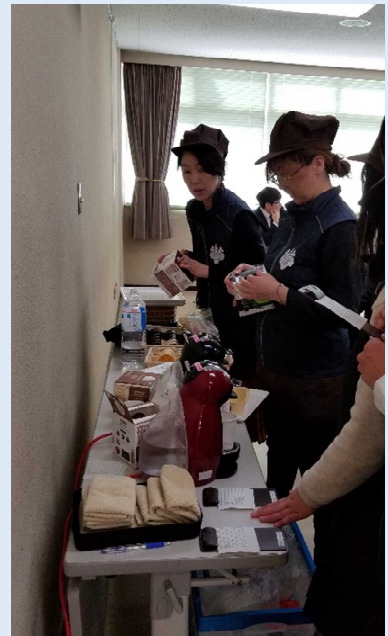
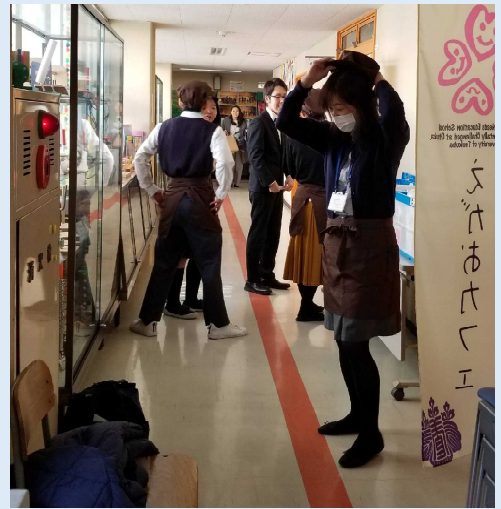
洛和ヴィラ文京春日



筑波大学茗荷谷キャンパス内



えがおカフェ in 大塚



カンガルーシップ活動 理解プロジェクト参加感想

提出日	平成31年3月8日
学校名	筑波大学附属大塚特別支援学校
学年	高等部

忙しくて笑顔を忘れてしまったので、気を付けます。

みなさんが喜んでくれたのが嬉しかった。

オーダーを間違えないように、よく覚えるようにした。

自分の足りなさを磨きたい。

楽しかった（本年度で卒業）。

大変だけどがんばって仕事をしています。

何回も活動をがんばりました。

カンガルーシップ活動 理解プロジェクト参加感想

提出日	平成31年3月8日
学校名	筑波大学附属大塚特別支援学校

利用者（参加者）の声

おいしいです。楽しみにしています。

ありがとう、おいしかったです。

コーヒーのおかわりをいただきました。

若い子とお話できてうれしい。

ブラスバンドを盛り上げて頂き、その上おいしいコーヒーまでありがとうございました。

老人ホーム管理者の声

2年目ということで、このイベントが恒例となり、利用者の皆様も楽しみにしています。生徒さんたちとの交流が出来る上に、利用者同士の憩いの場となっています。

保護者の声

利用者の方々が嬉しそうで、和やかな雰囲気になっているのがわかりました。今後も継続すべき活動だと思います。

子どもたちは助けて頂くことばかりだけでなく、人のために貢献出来るのだということが分かって嬉しかったです。

お菓子を作る際、緩められない衛生帽子やマスク、手袋を装着するなど徹底した衛生管理の下で作る所を拝見しました。特に、老人ホームの方々を対象にしている活動では、今後も衛生面に万全を期したほうが良いと思います。

回数をこなす毎に子どもたちの動きがスムーズになっていき、実践を積んでいく事の大切さがよくわかりました。